附帯決議案

駿台政圣学会

六月斗争と我々の新たな質の斗いのその第一歩として設定された学苑会学生大会が、MLの諸君による12日の文学部の学友諸君に対するテロ・リンチという、策動によって継続審議を延ばさざるを得ないという中にあって、学苑会学生大会を断固として勝ち取り、秋の斗いに向けた我々の戦列の再編・強化を勝ち取ってゆかねばならない。

日帝が70年代に於て、その侵略・反革命を、自衛隊の帝国主義軍隊として四次防・五次防としてその強化を軸に72年沖縄返還にメルクマールをすえつつ進行している中にあって、入管体制・大学の一整授業料値上げとして、その国内体制の帝国主義的再編が強化されている——個別明治大学に於る実態的現われとしてのロックアウト体制——我々の斗いは、それらに向けて新たな質の斗いを要求されている。それは主要に、全共闘運動の再編の問題としてある。この事を我々が如何に克ち取ってゆくかが問われている。我々はその方向性に拠って6月斗争を第一歩として斗い抜いた。

我々の67・10・8以来の斗いの到達点として权力斗争の時代への突入があり、全共闘運動もその様な時代に於てその再編、すなわち、実別組織、従って武装の質も权力に対しての防衛武装たらざるを得ないものから地区への再編・地区に於る個人民と、結合の中から权力斗争を担う部隊への飛躍を勝ち取ってゆかねばならない。このことをこれからの我々の斗いの軸としなければならない。その中から、とりわけ今秋に設定された斗いに向け夏休みという困難な局面を斗い抜いてゆかねばならない。

《入管体制粉砕》

政府ブルジョワジーは入管法を今秋に再度国会に上程しようとしている。この事は、東南アジアに向けた侵略・反革命下の国内再編——国内の排外主義イデオロギーへの集約・四国・北朝鮮人民とりわけ在日アジア人への抑圧・反革命としてある。この間の朝鮮高校生への暴行事件等によっても明らかであり、一号入管体制によりその侵略・反革命の道を強化しているのである。これに対する斗いが意味には、在日アジア人とりわけ華橋青年斗争委員会の諸君を中心に斗われて来た、そして地区実行委として斗われている斗いに我々も参加してゆく中から地区共斗への再編を勝ち取ってゆかねばならない。

《10・21国際反戦デー》

一方、防衛庁・新宿・国会、昨年新宿を中心として斗われた10・21斗争を我々は70年代の我々の斗いの具体的第一歩として斗い抜かねばならない。日帝の70年代に於る鉄路線＝軍事外交路線との対決をその基軸にして、反革命実験隊＝機動隊の壁を突破して斗いぬかねばならない。

《沖縄斗争勝利へ》

我々は70年安保の実体を沖縄問題として把握した。そのことは真にあの日米共同声明に明らかにされた様に、72年返還と、日米反革命共同軍事行動、その前進基地（とりわけ、小笠原返還にみられた様に、自衛隊の派兵）がその軸となることが明確である。基地徹去・本土復帰をとなえた沖縄人民の斗いの新たな質への飛躍が問われている現在、72年をメルクマールとして煮つまってゆく沖縄斗争を斗ってゆかねばならない。

《ロックアウト体制粉砕・学館解放》

現在の明大に於るロックアウト体制が中教審大学立法の実質化としてあることは明らかであり、ロックアウトの中に於て大学の帝国主義的再編が進行している、このことは授業料の値上げをみても明らかであり、ロックアウト体制としての象徴的な表現が学館の封鎖である。我々はまず学館の、我々の手による、実力解放——6・29はその第一歩としてあったが、しかしながら、一時的解放はその意味に於てはハプニング的にしかすぎなく、その[illegible]を永続的に、权力との対決をも含めて、勝ち取ってゆかねばならないし、その中の第一歩としてロックアウト体制粉砕に向けた斗いを斗い抜いてゆかねばならない。

《授業料値上げ粉砕》

今秋、学校当局は、明大・法大・中大での一整値上げを打ち出そうとしている。この事はさらなる大学の再編としてあり、又そのことは、とりわけ五部改悪（麿上・五年制等）としてすでに準備は着々と進行している。ロックアウト体制・機動隊の常駐体制をもって値上げを為そうとしている学校当局に対しての斗いをクラス斗争委——一連協の相築をもって斗い抜かねばならない。

以上のことが今秋からの我々の具体的斗争としてあるだろうし、今回の学苑会学生大会をその態勢への第一歩として勝ち取り、今秋の臨時学生大会をもって学苑会体制の相築、そして五部共闘の再編を勝ち取ってゆく中から、クラス斗・一連協の相築をもって斗い抜こう。

NO.7